

各地の富

Part 4

ここでは、京・大坂・南都(奈良)で行われた御免富、中国地方や九州地方で行われた富を紹介する。江戸と同じく、上方では1810～40年代には御免富が流行し、幕末にかけては中国地方や九州地方で富興行が隆盛を極めた。

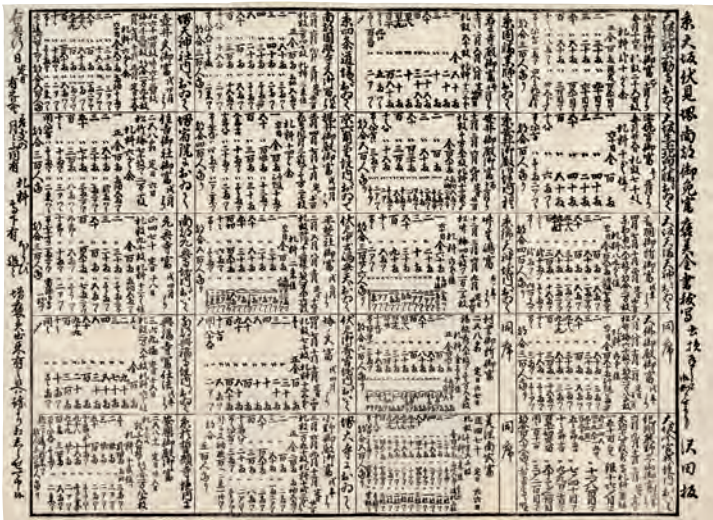
富突きの方法は江戸とは異なり、富札を買う際、当せん時の本人確認のため、言葉や絵などの合言葉を書いて主催者に渡した例もあった。当せん者が書いていた合言葉を「富上り文句」といい、富突き後には富上り文句を集めた冊子「富上り文句帳」が作られ、縁起物として販売された。

富が流行した江戸後期は、庶民に旅ブームがおこった時代でもあった。参詣客を見込んで行われた出雲大社の富では、周辺地域の飲食・宿泊業に経済波及効果をもたらされた。



上方の富

江戸で御免富が盛んであった時期、上方および西日本においても御免富が流行を極めていた。この地域の富札は江戸のものとは比べて大型で、カラフルなものも発行された。



上方の主な開催地

京大坂伏見堺南都御免富褒美金書抜写

911571

京都、大坂、伏見、堺、奈良で開催されていた御免富の仕法を一覧にした資料。上方の門跡寺院をはじめ著名な寺社が主催者となり、繁華な地区での興行が行われていた様子がわかる。



富札 三縁山
京寺町四条道場内
915794

江戸の三縁山（増上寺）が主催し、京都の四条道場（金蓮寺）で行った富興行で発行された富札。午年 10月 3日の富興行のもので、江戸の富札よりもひと回り大きい。



富札 山階御殿
京寺町三条誓願寺境内
915851

京都の山科御殿（毘沙門堂）が主催し、京都の寺町三条にある誓願寺で行った富興行で発行された富札。亥年正月 2日の富興行のもので、組名を示す「午」の絵と、毘沙門天の使いとされるムカデの模様が多色刷りされている。右側は、組違いの「未」。



富札 山階御殿
京寺町三条誓願寺境内
915857

同じく山科御殿主催の富札。組名を示す「寅」と、竹林の絵が多色刷りされている。「半札」の押印があり、裏面（右）の印とともに、この富興行では主催者が割札を作っていたことがわかる。



富札
紀州熊野三之山
大阪今宮戎境内
916261

紀伊国の熊野三之山が主催し、大阪の今宮戎神社境内で行った卯年12月の富興行で発行された富札。熊野三社の使いとされる三羽の八咫鳥が描かれている。



摂州今宮蛭子境内におゐて
紀州熊野三之山御富興行場所
911566

紀伊国の熊野三之山が主催し、大阪の今宮戎神社で行った富興行の会場配置図。大津屋平兵衛が板行した。13間(約24メートル)四方の舞台に、回転式の富箱が置かれている。進行を監視する「御見分御役人様」や、富突きの後に発行された富上り文句帳を刷る「文句摺細工場」もみえる。



富札 蔵人御所
坐摩神社
916230

京都の蔵人御所(本光院)が主催し、大阪の坐摩神社で行った富興行で発行された富札。午年霜月11日の富興行のもの。



富札 河州平岡大社
堺宿院
916169

河内国の平岡大社(枚岡神社)が主催し、堺宿院(宿院頓宮・住吉大社の御旅所)で行った富興行の富札。裏面(右)には「当せんした場合、仲買と同道の上、事前に書いた取扱い書と引き合わせて、褒美金(賞金)を渡す」と書いた印が捺されている。



富札 南都興福寺
916255

奈良の興福寺が主催し、同境内で行った富興行で発行された富札。戊年9月15日の予定であったが延期され、12月15日となった由の朱印が捺されている。



富札
肥後千両富会所
916957

熊本(肥後)の藤崎八幡宮が主催した富興行の富札。1854(嘉永7・安政元)年2月の富興行のものと考えられる。江戸・京・大阪の富札とは形状が異なっている。

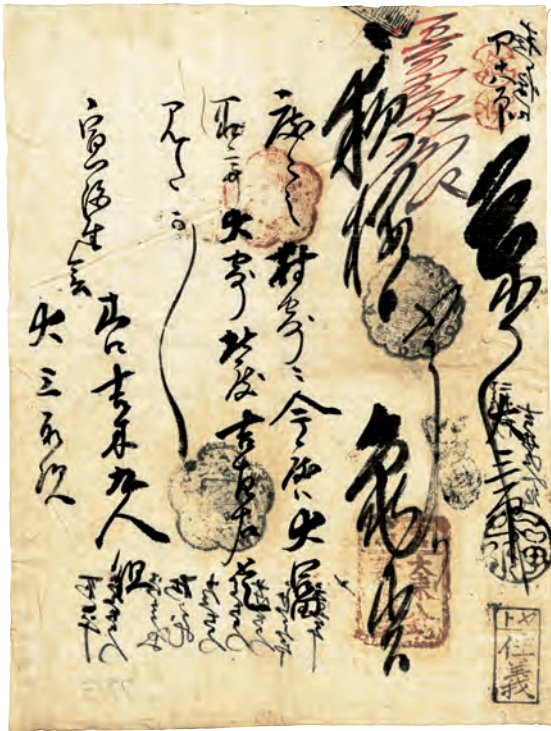
西日本の富 一富駒・合鑑一

上方や中国地方など、西日本の富興行では、江戸の富興行とは異なり、当せん時の本人確認のために、合言葉や絵を設けることがあった。当せん者の合言葉は「富上り文句」とよばれた。

富駒

962009

中国地方の富興行で使われたと考えられる。小さな木製の駒の側面には、合言葉が細字で書かれている。



西日本の富興行の進め方 一広島藩の例一

- ①参加者は合鑑の紙と富駒を買う。
- ②合鑑には参加者が任意の合言葉や絵を書き、主催者から検印を受けた後、参加者が保持する。
- ③主催者は、この合言葉を富駒に書き写す。
- ④富駒を集めて箱や桶に入れ、公開の場で、富駒を錐で突く。
- ⑤突かれた富駒に書かれている言葉を読み上げ、同じ言葉を書いた合鑑の所有者が当せんとなる。
- ⑥売り上げの5パーセントは藩の収入となる。

合貫（合鑑）

917446

安芸国宮島で行われた、大東（薪と考えられている）の入札を装った広島藩営の富興行で発行された資料で、合鑑（資料では「合貫」と表記）という。参加者が設けた合言葉「度々之村寄二、今度ハ大富取て大寄、此度吉左右、是見たか見たか」が書かれている。本資料の購入者（富の参加者）は9人で共同出資したと考えられ、裏面には全員の名前が書かれている。

当せん金書付

917406

宮島で行われた富興行で、当せん金を渡す際に主催者が発行した文書。大東1,500束（金額がいくらに相当するかは不明）が当せんしたことを記し、当せん者が設けた合言葉「当月朔日の朝、我家に胡様入せ給ふ、われ此度大物二叶、吉左右、難有難有」が書かれている。



西日本の富 一津山万人講の例一

幕末期（19世紀後半）には、地方でも大規模な富興行が行われた。美作国津山で行われた津山万人講は、その代表例である。津山万人講は、享保年間（1716～36）に始められ、何度か中断を経て、明治初年まで行われ、年間3～5回の定期開催であった。周辺地域のみならず、四国地方や近畿地方からも参加者があった。



万人講上り札文句帳 全

911547

1855（安政2）年11月15日に行われた津山万人講で出版された富上り文句帳。主要な当せんは60本で、当せん順に富上り文句が採録されている。版元は津山京町の加茂屋平左衛門。この富興行での寄札高（富札の販売総数）は23,889枚。総売上高のうち3割が「三步銀」として必要経費や藩への納入金となり、7割が当せん金にあてられた。



富出番

911588

戊年11月15日の津山万人講で、当せん者に渡された文書。本資料は16番目の当せん者に賞金銀1貫137匁を渡したことが書かれている。裏面には、賞金を「銀札」（津山藩札）で渡した、とある。



津山藩札

銀札百目預り

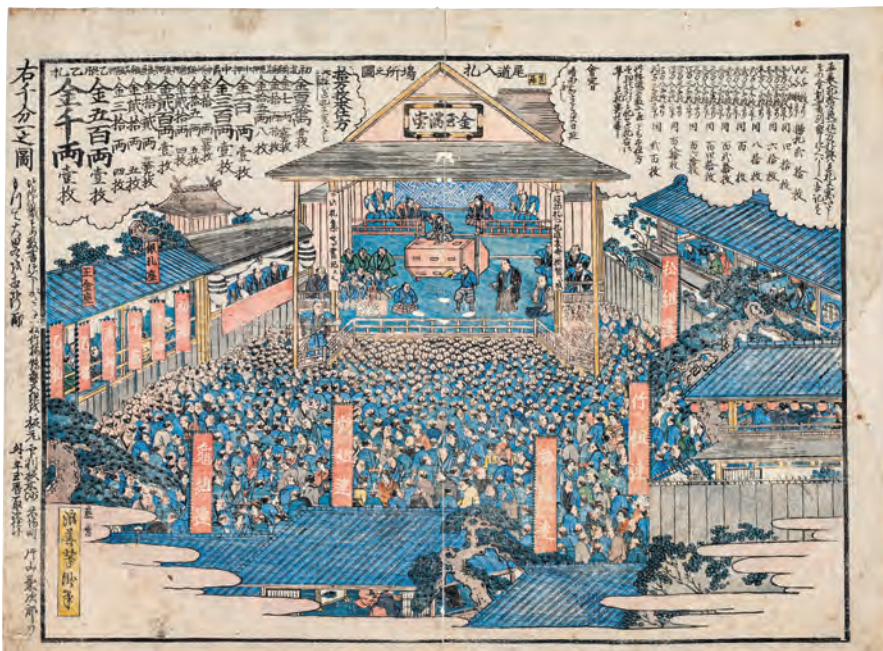
506618

銀100目（匁）の津山藩札。津山万人講で当せん者に渡された賞金は、幕府正貨である金銀貨でなく、藩内でのみ通用する藩札であった。

富興行の伝播 一尾道一

江戸後期、中国地方では商品の入札を装った富興行が盛んに行われた。

備後国尾道では、特産物であった畳表（備後表）の入札が装われ、周辺各地からの参加者を集めた。



尾道入札場所之図

中井芳瀧 (1841 ~ 99)

900139

尾道で行われた富興行「畳表入札」の様子を描いた錦絵。舞台には「金玉満堂」の扁額が掛かり、回転式の大きな富箱が置かれ、その上に人が乗って錐を突いている。

絵の雲の部分には富興行の仕法が書かれ、富札の売上枚数によって当せん本数や当せん金額が変化すること、規定枚数まで富札が売れた場合の当せん金額などが定められている。

覚（富仕法書）

911415

尾道の畳表入札の富仕法書。富札の発行枚数が6,000枚であることや、当せん規定などが書かれている。この富興行では、富突きは「つむ入」とよばれていた。



畳表入札拾万枚一仕方揚札二百枚割合書

911413

辰年3月に発行された、尾道の畳表入札の富仕法書。富札の発行枚数は10万枚で、先の「覚」（911415）に書かれた頃よりも開催規模が拡大していたことがわかる。規定枚数まで富札が売れた場合の当せん本数は200本であること、当せん金額などが定められている。

富興行の伝播 一尾道一



富興行日時触

911579

辰年8月28日に富突きを開催することを告知した資料。尾道入札會所が発行した。天候などで差支えが生じたときは翌29日の開催とし、さらに延引した際には、参加者の宿料を補償することなどが書かれている。



合貫 (合鑑)

917451

尾道の豊表入札で使用された合鑑(本資料では「合貫」と表記)。富札の購入者「札元芳蔵」が設けた合言葉「鰻之魚頭ヲナラベ、掴出んと待し所江、大口繩、我に飛懸り、此度乙札金叶」が書かれている。富札の販売者は「尾道米場丁入札宿 うつみや定次郎」となっている。



五	四	三	貳	壹
...
...
...
...
...
...
...
...

尾道豊表入札揚り文句集

911508

甲子の年(1864・元治元年か)5月28日の尾道豊表入札における富上り文句帳。表紙は鶴亀の図が多色刷りされ、1冊の価格は160文。板元は籠屋又兵衛。なお、この時の富興行では富札の販売数は141,978枚にのぼった。

富興行の伝播 一 東予川之江

中国地方で盛んであった商品入札を装った富興行のシステムは、地域を超えて伝播した。

1868（慶応4・明治元）年の6月と9月に伊予国川之江で行われた富興行「川之江湊富」は、港の修築費の調達を目的として行われたが、対岸の尾道豊表入札の富興行のシステムを模倣したものであった。



東予川之江湊 富會所之図

中井芳瀧（1841～99）

900138

川之江湊富の様子を描いた錦絵。舞台の扁額が「橘岡堂」となり、当せん規定の箇所が書き変えられていること以外は、「尾道入札場所之図」（900139）と全く同じ画面構成である。



富興行日時触 川之江富會処

911582

1868（明治元）年の9月15日に参加を締め切り（「入込」）、同17日に富突き（「錐入」）を開催することを告知した資料。尾道豊表入札で作成された資料とほぼ同一の形式である。



予州川之江湊富揚文句集

911552

1868年6月9日に行われた川之江湊富の富上り文句帳。表紙には、帆を上げて宝物を満載した宝船が多色刷りで描かれている。1冊の価格は銀3匁で、板元は白貴堂。

本資料によると、この富興行の主要な当せんは200本。富札が8万枚売れた場合の最高当せん金額として金1,000両が設定されていたが、実際の売上枚数は29,492枚であった。このため、最高当せん金額も金368両余に減額された。

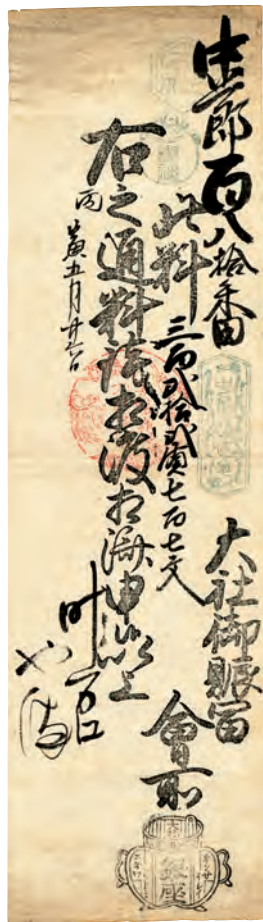


出雲大社の大社御賑富

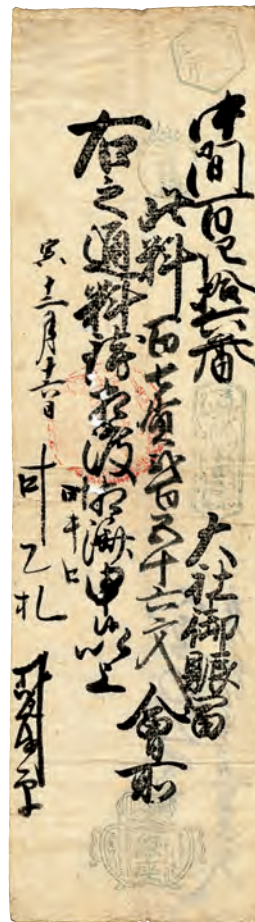
出雲大社のある杵築では、18世紀前半から明治時代にいたる長期間にわたって富興行が定期的に行われた。出雲大社の門前町として栄えた杵築の富は、「大社御賑富」などよばれ、全国各地から多くの人々が集まった。富興行が賑わった背景として、江戸時代後期に庶民が旅をする機会が増えたことが考えられる。



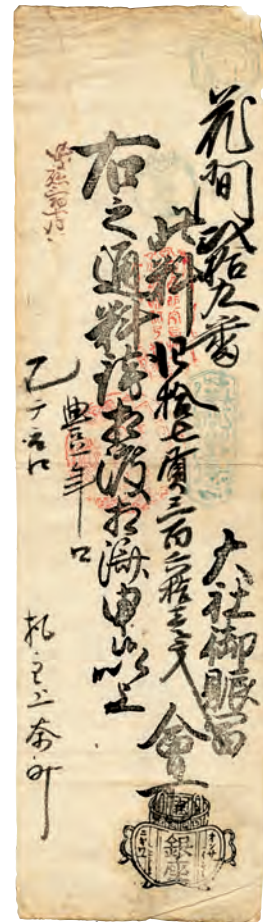
917529



909626



909627



909628

大社料銭渡証文

917529、909626、909627、909628

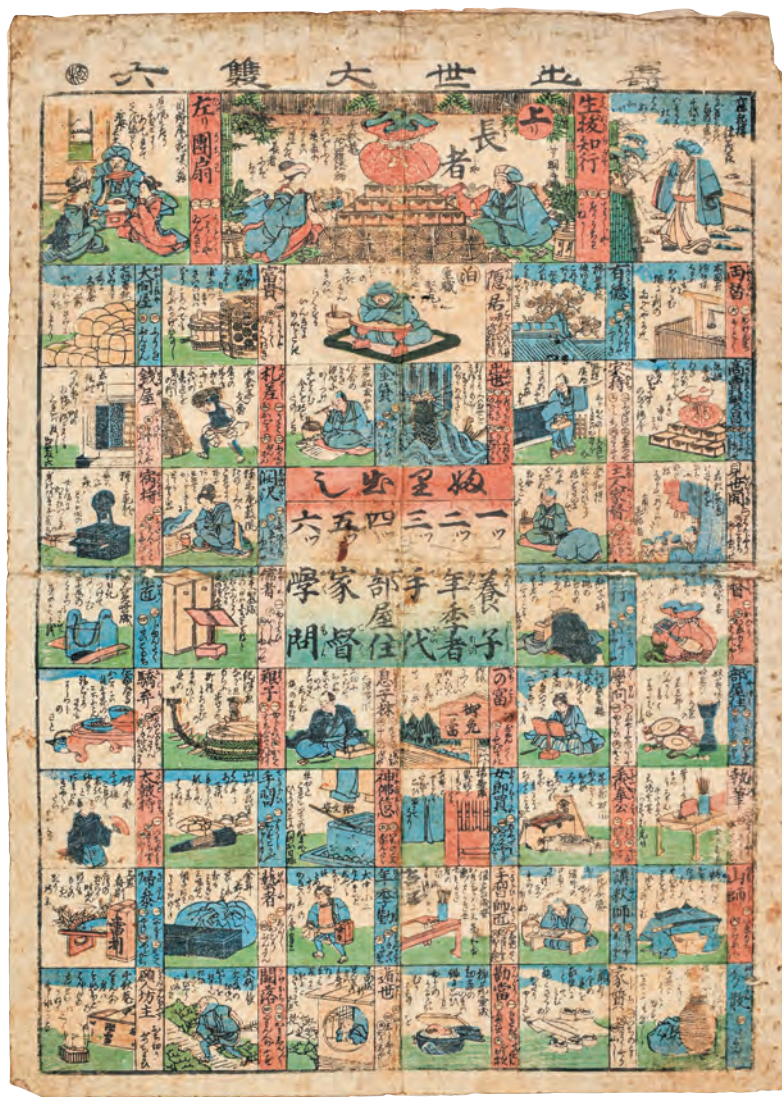
当せん金を当せん者に支払った際に発行された文書。当せんの順番、当せん金額、支払日、主催者、富札の販売などを請け負った業者、受け取った人のサインが記されている。



下方には、当たり札を銭貨と交換した「銀座」の印が捺されている。

人びとが富に抱いたイメージ

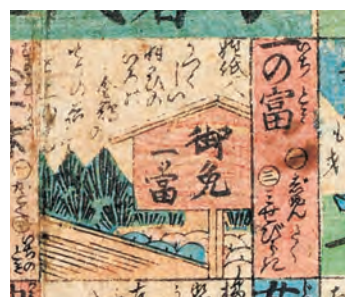
富興行が浸透していた江戸時代には、戯作といった文学作品や双六などにも富は登場していた。文学や双六の中に描かれた富を通して、当時の人びとが富をどのようにとらえていたのかをみていく。

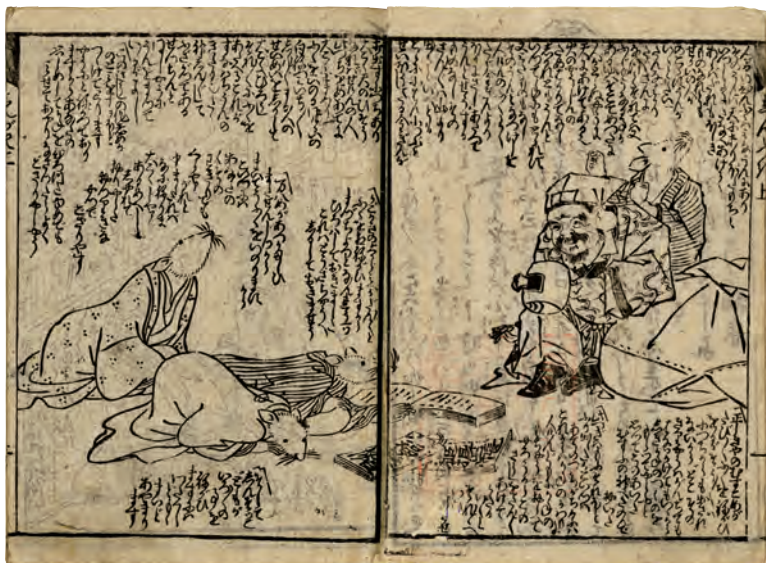


壽出世大双六

901225

振り出しから賽の目に沿って進み、立身出世をして長者になっていく過程を描いた双六。このなかに「一の富」という項目がみえる。「一の富」へは、「家質」「執筆」「神仏信心」「太鼓持」「息子株」から進み、「一の富」からは「潤沢」「店開き」という項目に進むことができる。





新鑄小判耳たぶ

十返舎一九 (1765 ~ 1831) 1795 (寛政7) 年

904497

お金にまつわる黄表紙。大黒の使いの白ネズミが信者の名前や願いを帳簿に書きながら、「この本の作者(十返舎一九)が“富が10回くらい続けて当たりますように」と願っているので、あなたの思し召しで、せめて金を拾った夢でも見せてあげたいかがでしょう」と大黒に話している。当時の人々が、富の当せんを夢見ながらなかなか当たらないことや、大黒を信仰している様子うかがわれる。



銭鑑貨写画

曲亭馬琴 (1767 ~ 1848) 1800 (寛政12) 年

904493

右上に「大欲銭」とあり、人々が銭の顔をした大黒を拝んでいる様子が描かれている。ここでは、わずかな供え物で「1,000両欲しい」「長者にして欲しい」と欲深く願う人々の行為について、「たった一枚の富札しか買わないのに100両を得ようとするより欲深いことだ」と述べられている。

日本銀行金融研究所貨幣博物館所蔵 富関係資料目録（富上り文句帳・富出番録）

凡例

- 1、資料名称は、資料の原題を採録した。原題を欠くものについては適宜（ ）を付して資料名称とした。
- 2、各項目の採録において、適宜（ ）を付して内容を補った。
- 3、漢字の表記は、原則として資料表記のままとし、適宜常用漢字に改めた。
- 4、虫損等により判読できなかった部分は、字数分を「□」とした。また、その直後に「（～カ）」と記して内容を補ったものもある。

富上り文句帳目録

資料番号	資料名称	作成年次	主催者、興行地	板元等	単価	寄札高(枚)
911502	日本第一紀州熊野三之山御富 摂津大坂今宮蛭子境内において御富当り札すり出し	(文政) 11月24日	紀州熊野三之山、 大坂今宮蛭子境内	御富方大津屋平兵衛・ 阿波屋季八、板木師 大坂阿弥陀池西門末吉 源兵衛		74,832
911503	紀州熊野三之山 御富興行於大坂今宮広田境内	閏11月	紀州熊野三之山、 大坂今宮広田境内	御富方今津屋紋蔵・ 泉屋伊兵衛		56,270
911504	紀州熊野三之山 御富興行於大坂今宮広田境内 (表紙を含む3丁のみ)		紀州熊野三之山、 大坂今宮広田境内			
911505	御国産綿入札揚札文句集	辰5月9日	御国産綿入札、 東備州西大寺港	板元湊屋三郎兵衛	3文目	36,761
911506	海堀講文句集	卯12月	海堀講、備州片上駅	西大寺湊三梓	2匁5分	109,008
911507	海堀講過札揚文句集	卯12月	海堀講、備州片上駅	西大寺湊三梓	5匁5分	109,008*
911508	尾道畳表入札揚り文句集	甲子5月	尾道畳表入札	板元籠屋又兵衛	160文	141,978
911509	尾道畳表入札揚り文句集	亥4月	尾道畳表入札	板元籠屋又兵衛	160文	81,366
911510	畳表入札本仕方拾万之外過札揚文句集	丑12月	(尾道) 畳表入札	板元大坂屋市兵衛		242,149*
911511	鞆津綱丸入札揚り文句集	辰2月	鞆津綱丸入札	根元升屋小八	3匁5分	44,302
911512	鞆津綱丸入札揚り文句集	辰4月	鞆津綱丸入札	根元升屋小八	3匁5分	41,433
911513	鞆津綱丸入札揚り文句集	丑6月	鞆津綱丸入札	板元升屋小八	2匁7分	95,436
911514	鞆津綱丸入札揚り文句集	丑11月	鞆津綱丸入札	板元升屋小八	2匁7分	100,762
911515	鞆津綱丸入札揚り文句集	丑4月	鞆津綱丸入札	板元升屋小八	2匁7分	100,141
911516	鞆津綱丸入札揚り文句集	丑9月	鞆津綱丸入札	板元升屋小八	2匁7分	62,846
911517	鞆津綱丸入札揚り文句集	辰7月	鞆津綱丸入札	根元升屋小八	3匁	36,181
911518	大社御賑富上り札文句全 (表紙のみ)	卯8月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋孫右衛門・ 三原屋定兵衛	292文	194,296
911519	大社御賑富上り札文句全	寅3月	(出雲) 大社御賑富	板元宇屋幸右衛門・ 荒木屋孫右衛門		174,355
911520	大社御賑富上り札文句全 (表紙のみ)	卯10月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋孫右衛門・ 三原屋定兵衛	3匁	111,800
911521	大社御賑富上り札文句全	卯6月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋孫右衛門・ 三原屋定兵衛	3匁	153,598
911522	大社御賑富揚札文句後	辰8月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋万五右衛門・ 三原屋定兵衛	銀札2匁	
911523	大社御賑富上り札文句全	辰(慶応4年)8月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋万五右衛門・ 三原屋定兵衛	銀札2匁	211,216
911524	大社御賑富上り札文句全	酉(文久元年)8月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋孫右衛門・ 宇屋又市郎	145文	128,790
911525	大社御賑富揚札文句後 (表紙のみ)	辰3月	(出雲) 大社御賑富	板元三原屋定兵衛・ 荒木屋万五右衛門	銀札2匁	
911526	大社御賑富上り札文句全	戌8月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋孫右衛門・ 宇屋又市郎	145文	101,025
911527	大社御賑富上り札文句全 (表紙のみ)	辰(慶応4年)1月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋万五右衛門・ 三原屋定兵衛	2匁	143,446
911528	大社御賑富上り札文句全	酉(文久元年)8月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋孫右衛門・ 宇屋又市郎	145文	128,790
911529	大社御賑富上り札文句全	子8月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋孫右衛門・ 宇屋幸右衛門	146文	107,031
911530	大社御賑富上り札文句全	申(万延元年)8月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋孫右衛門・ 宇屋又市郎	145文	115,670
911531	大社御賑富上り札文句全	嘉永5年8月	(出雲) 大社御賑富	板元荒木屋七郎兵衛・ 宇屋小右衛門	145文	90,972
911532	大社御賑富上り札文句全	戌(文久2年)3月	(出雲) 大社御賑富	板元宇屋又市郎・ 荒木屋孫右衛門	145文	173,978

資料番号	資料名称	作成年次	主催者、興行地	板元等	単価	寄札高(枚)
911533	雲州赤名頓原町積金講	元治2年1月18日	雲州赤名頓原町積金講、頓原町	板元赤名下市富小屋前大浦屋長左衛門	錢180文	15,691
911534	雲州赤名頓原町積金講	元治元年12月20日	雲州赤名頓原町積金講、赤名町	板元赤名下市富小屋前大浦屋長左衛門		22,052
911535	雲州赤名頓原町積金講	文久3年10月28日	雲州赤名頓原町積金講、赤名町	板元赤名下市富小屋前大浦屋長左衛門	錢150文	14,118
911536	雲州赤名頓原町積金講	文久2年12月12日	雲州赤名頓原町積金講、頓原町	板元赤名下市富小屋前大浦屋長左衛門		24,395
911537	雲州赤名頓原町積金講	文久3年12月12日	雲州赤名頓原町積金講、頓原町	板元赤名下市富小屋前大浦屋長左衛門	錢150文	21,808
911538	福寿山御鬮講揚り文句 大塚会所 (表紙および帳外れの1枚のみ)		福寿山御鬮講、大塚会所			
911539	日御碕御賑歌合揚文句帳 (表紙のみ。「正一位推恵社歌合上り文句全」の表紙を添付)	辰4月	日御碕御賑歌合	板元伊野屋与市・塩田屋善吉	2匁	114,692
911540	日御碕御賑歌合揚文句帳(2冊合綴)	①慶応元年7月1日 ②慶応2年2月15日	日御碕御賑歌合	板元伊野屋与市・塩田屋善吉		① 51,352 ② 80,639
911541	勸進講上り文句(帳外れ4枚一括)	卯11月1日	勸進講、勝山化生寺	勝山化生寺講元		8,918
911542	三次麻芋入札揚り文句集	亥10月	三次麻芋入札	板元金屋利八	200文	37,860
911543	備後三次麻芋入札揚り文句集	辰3月	備後三次麻芋入札	板元金屋利八	4匁	13,764
911544	備後三次麻芋入札揚り文句集	子10月	備後三次麻芋入札	板元金屋利八	290文	73,890
911545	上り文句帳全	安政3年12月18日	(備中足守)	版元足守中之町杣屋新助		24,119
911546	万人講上り札文句帳全	嘉永7年2月15日	津山万人講	版元津山京町加茂屋平左衛門		11,158
911547	万人講上り札文句帳全	安政2年11月15日	津山万人講	版元津山京町加茂屋平左衛門		23,889
911548	万人講上り札文句帳全	安政4年11月15日	津山万人講	版元津山京町加茂屋平左衛門		36,286
911549	米子木綿入札揚り文句集	辰8月	米子木綿入札	板元完道屋恒右衛門	3匁	73,227
911550	米子木綿入札揚り文句集	辰12月3日	米子木綿入札	板元完道屋恒右衛門	3匁5分	127,013
911551	金毘羅講上り札文句	文政5年3月15日	福井金毘羅講、(三国湊または福井町外牧之嶋)	板元福井下呉服町松邑堂・上板屋町道明堂		38,963
911552	予州川ノ江湊富揚文句集	辰6月	予州川ノ江湊富	板元白眞堂	3文目	29,492
911553	広瀬万人講上り文句全	慶応元年7月9日	広瀬万人講	板元宇左衛門		
911554	広瀬万人講上り文句全	文久4年2月11日	広瀬万人講	板元宇左衛門		10,083
911555	広瀬万人講上り文句全	慶応元年閏5月15日	広瀬万人講	板元宇左衛門		6,605
911556	拾万枚本仕方之外過札揚り文句集		(尾道豊表入札)	板元籠屋又兵衛	3匁3分	152,271*
911557	拾万枚本仕方之外過札揚り文句集		(尾道豊表入札)	板元籠屋又兵衛	4匁7分	209,338*
911558	万人講上り札文句帳	文政4年11月15日	津山万人講	版元津山伏見町春木屋松蔵		61,181
911559	母里稲荷神社御鬮上り札文句	文久2年12月23日	母里稲荷神社御鬮			8,416
911560	雲州西比田金屋子講上文句	文久3年11月	雲州西比田金屋子講	板元宇左衛門		8,127
911561	金屋子講上り文句全	文久4年4月15日	金屋子講	板元宇左衛門		
911562	比田金屋子講上り文句全	元治2年3月21日	比田金屋子講	板元宇左衛門		24,199
911563	雲州頓原町積金講上り文句帖	2月24日	雲州頓原町積金講			11,151
911564	三緑山御富文句摺出し 於長町毘沙門境内興行	卯12月	三緑山御富、(大塚)長町毘沙門境内	御富方		42,178
911565	西備府駅場講入札揚番	午4月	西備府駅場講入札	板元福寿亭、判木師藤田利助刀		38,590

(注) 寄札高のうち「*」を付したものは、過札分を含んだ数値。

富出番録目録

資料番号	資料名称	作成年次	主催者または資料作成者	興行地	備考
911466	御富出番録	丑8月19日	三縁山京御富役所	京四条道場	1～100番
911467	御富当附	子4月1日	三縁山御富役所	大阪長町毘沙門	1～100番
911468	御富当	巳7月29日	三縁山御用所	大阪長町毘沙門	1～100番
911469	(富出番録)	子11月21日	三縁山御富大阪御用所		卯から寅の組名と、番号を記載。911466～911468とは書式が異なる。「なんば 大はし西つめ おやき富札 辰巳」の墨印あり
911470	(富出番録)	子11月21日	三縁山御富大阪御用所		酉から申の組名と、番号を記載。911469と同書式。「金千両」の旗を担ぐ人物印あり
911471	(富出番録)	子10月26日	三縁山御富大阪御用所		丑から子の組名と、番号を記載。911469と同書式。「未広講 松や町本町南へ入金籠」の墨印あり
911472	(富出番録断簡)	子10月26日	三縁山御富大阪御用所		寅から丑の組名と、番号を記載。911469と同書式。「未広講 松や町本町南へ入金籠」の墨印あり
911473	御室御所御富当り附	午11月24日	御室御所	京四条道場	
911474	御室御所御富当り附	巳8月11日	御室御所	大阪不動寺	
911475	薄雲御殿御富出番録	巳8月10日	薄雲御殿	京誓願寺境内	1～100番
911476	松尾社富出番附	午3月8日	松尾社	伏見大光寺境内	1～100番
911477	大原寺富会所	戌10月8日	大原寺富会所		1～100番
911478	蔵人御所御富当り附	午11月18日	蔵人御所	坐摩社内	
911479	喜多院殿御富当り附	巳5月8日	喜多院殿	堺神明社境内	
911480	御免富	亥7月24日	城州梅宮富会所		1～100番
911481	御富当り附	午8月29日	平岡大社富用所	堺宿院	1～100番
911482	御富出番録	申6月26日	紀州熊野三之山御富役所	京四条道場	1～100番
911483	御富出番録	戌2月26日	紀州熊野三之山御富役所	大阪高津宮社内	1～100番
911484	御免熱田宮午五月十日興行中札番附	午5月10日	吉田屋・中村屋		101～200番。「四百本突、袖井かな違弁落口メ四千八百本也」とあり
911485	御免富	亥6月20日	箱根山権現宮用所		1～100番
911486	幸手不動院 江戸杉森於社内興行	申2月21日	幸手不動院	江戸杉森社内	上部に当せん金額の高い出番を記載し、下部に当せん金の少ない出番を組別に記載
911487	亥十二月廿二日開	亥12月22日	板元富山古鍛冶町馬瀬口屋治兵衛		51～100番。「突揚札百枚」とあり
911488	助情御講出番録	酉11月8日	香取法泉寺		
911489	助情御講出番録	酉8月6日	香取法泉寺		
911490	助情御講出番録	酉8月15日	香取法泉寺		「先会 二枚当りあり」の墨書あり
911491	御免出番録(断簡)	酉10月27日			1～50番のみ切り取り
911492	御免富	戌10月5日	□(熱力) 田社用所		1～100番
911493	粟田御殿御富当附	丑1月26日	粟田御殿	京錦天神境内	1～100番
911494	粟田御殿御富当附	丑4月26日	粟田御殿	京錦天神境内	1～100番
911495	粟田御殿御富当附	丑7月29日	粟田御殿	京錦天神境内	1～100番
911496	粟田御殿御富当附	丑11月3日	粟田御殿	京錦天神境内	1～100番
911497	粟田御殿御富当附	寅4月3日	粟田御殿	京錦天神境内	1～100番。「急摺ニ御座候間影書損之義御用捨可被下候 板方」とあり
911498	尾州一宮神福富番附	子12月14日	尾州一宮	広井浅間社内	「急摺立故、万一間違等有之節ハ、用所元帳ニ而相調可申候」とあり
911499	入札開キ落圖目録	未7月10日	丹州園部勘定□(方力)		1～100番
911500	八幡社五百両講番附	亥12月	八幡社五百両講		1～50番
911501	趣法講番附	辰5月9日	趣法講三ヶ村講元		1～100番

主要参考文献

自治体史

- 青木茂編『新修尾道市史 第4巻』(尾道市役所、1975年)
- 糸魚川市役所編『糸魚川市史 3 近世2—江戸前期(続)・後期(上)一』(糸魚川市役所、1978年)
- 香川県編『香川県史 第4巻 通史編 近世Ⅱ』(香川県、1989年)
- 倉敷市史研究会編『新修倉敷市史 第4巻 近世(下)』(倉敷市、2003年)
- 琴平町史編集委員会編『町史ことひら3 近世・近代・現代 通史編』(琴平町、1998年)
- 新熊本市史編纂委員会編『新熊本市史 通史編 第3巻 近世Ⅰ』(熊本市、2001年)
- 新修大阪市史編纂委員会編『新修大阪市史 第3巻』(大阪市、1989年)
- 大社町史編集委員会編『大社町史 中巻』(出雲市、2008年)
- 津山市史編さん委員会編『津山市史 第5巻 近世Ⅲ—幕末維新一』(津山市、1974年)
- 廿日市町編『廿日市町史 通史編(上)』(廿日市町、1988年)
- 米子市史編さん協議会編『新修米子市史 第2巻 通史編 近世』(米子市、2004年)

文献・論文

- 青木茂『近世日本における富籤の社会経済史的研究』(童心房、1962年)
- 荒木豊三郎『富札考』(私家版、1962年)
- 荒木豊三郎『富札考 改訂再版 図録編』(私家版、1975年)
- 池田治司「護国山天王寺所蔵の富突関係資料にみる御免富の実態」(『大阪商業大学商業史博物館紀要』第7号、大阪商業大学商業史博物館、2006年)
- 浦井正明「御免富—その不正と事故—」(西山松之助編『江戸町人の研究 第6巻』吉川弘文館、2006年)
- 小川三夫編『富札づくし 第2篇』(兵庫貨幣会、1977年)
- 小川三夫編『富札づくし 第3篇』(兵庫貨幣会、1978年)
- 小川三夫編『富札づくし 第4篇』(兵庫貨幣会、1978年)
- 小野武雄『江戸風俗図誌 第6巻 江戸物価事典』(展望社、1979年)
- 喜田川守貞(宇佐美英機校訂)『近世風俗志(守貞謄稿)(1)』(岩波書店、1996年)
- 倉本修武『江戸時代大流行の富突興行と熊野三山の富興行』(大阪書籍、1996年)
- 松雲山人(平岡松彦)「出雲大社の富くじ考・同(中)・同(下)」(『大社の史話』第4・6・8号、大社史話会、1974年(第4号)、1975年(第6・8号))
- 進藤直作『伊予川の江村の研究—庶民の明治維新一』(青谷書房、1980年)
- 滝口正哉『江戸の社会と御免富—富くじ・寺社・庶民—』(岩田書院、2009年)
- 滝口正哉「上方の富興行について」(『大阪商業大学商業史博物館紀要』第11号、大阪商業大学商業史博物館、2010年)
- 寺門静軒(朝倉治彦・安藤菊二校注)『江戸繁昌記 1』(平凡社、1974年)
- 根岸鎮衛(鈴木棠三編注)『耳袋 1』(平凡社、1972年)
- 山崎裕二「杵築富くじ興行とその経済効果」(公益財団法人いづも財団・出雲大社御遷宮奉賛会編『出雲大社門前町の発展と住人の生活』今井出版、2018年)
- 山中良平「有年の富くじ—有年考古館所蔵「薪講圖箱」について—」(『有年考古』第4号、赤穂市教育委員会生涯学習課、2017年)

展覧会図録・ 翻刻史料

- 『津山郷土博物館特別展図録 第13冊 富くじと津山万人講』(津山郷土博物館、1999年)
- 小田忠・池田治司編『富札展—江戸時代の宝くじ—』(大阪商業大学商業史博物館、2006年)
- 台東区教育委員会社会教育・体育課編『台東区文化財報告書 第11集 富興行一件記Ⅰ』(台東区教育委員会、1991年)
- 豊田市郷土資料館編『特別展 夢 富くじ、宝くじ』(豊田市教育委員会、1994年)
- 広島県立文書館編「広島県立文書館 収蔵文書紹介 広島藩の富くじ」(広島県立文書館、2008年)
- 山梨県立図書館編『甲州文庫史料 第1巻 社会風俗編』(山梨県立図書館、1973年)

辞典

- 国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』(吉川弘文館、1979～1997年)
- 『古事類苑』法律部洋巻第3巻
- 『日本歴史地名大系』(平凡社、1979～2005年)

日本銀行金融研究所貨幣博物館 企画展
江戸の宝くじ「富」 ― 一攫千金、庶民の夢 ―

日本銀行金融研究所貨幣博物館 Currency Museum, Institute for Monetary and Economic Studies, Bank of Japan
103-0021 東京都中央区日本橋本石町1-3-1

発行日 2018年12月1日

編集・企画 倉林重幸・湯川紅美・関口かをり